

GA331

言語文化演習 ー身近な文化を読みほくー

衣笠 正晃

配当年次/単位：3～4年 / 4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのような社会でも、その文化はつねに異文化＝他者との出会いや対決のなかで自らを形成し続けており（＝相関的）、その結果として多様な（＝複数的）要素が、重なり合って存在する（＝重層的）ものとなっています。

本ゼミではこのような〈相関性・複数性・重層性〉という視点から、われわれを取り巻くさまざまな文化事象を、ゼミの仲間との自主的な議論を通じて考察してゆきます。そのなかで現代社会のあり方とそれが抱える問題を深く理解するとともに、それに向き合う視座と判断力を身につけることを目指します。

なおこれまで本ゼミの授業や個人研究で取り上げられてきた対象は、アニメ、マンガ（コミック）、映画、ポピュラー音楽、ファッション、ツーリズム（観光）から、スポーツ社会学、都市空間論、教育問題、言語と社会、ITと社会など、多岐にわたります。

【到達目標】

- 1) 比較文化・比較文学、カルチュラル・スタディーズ、文化社会学、メディア・スタディーズなど、文化を研究・分析するために必要な理論的枠組みや知識を習得する。
- 2) 幅広い知的好奇心を保ちつつ自らの関心領域を絞り込み、具体的な文化事象の考察をおこない、現代世界の諸問題とその歴史的文脈について理解し、自らの考えを深める。
- 3) 個人研究の発表、グループでの討議・報告を通じて、自らの意見を説得的に伝えることのできる論理性・プレゼンテーション力を身につける。
- 4) 先行研究など文献の読解やフィールドワークなどの調査に必要な、アカデミック・スキルを学び取る。

【授業の進め方と方法】

上記の目標を実現するため、このゼミではグループワークと個人研究を並行しておこないます。

春学期には、文化を考えるための基礎となる理論や考え方を確認するため、先行研究を一緒に読み進め、討議します。学期後半からは秋学期の国際文化情報学会を視野に入れつつ、グループワークによるプレゼンテーションをおこないます。

秋学期は国際文化情報学会への参加準備のためのグループワークと、各自の個人研究の紹介・発表を並行して進めます。また随所で理論的な枠組み、モデルとなる研究を検討します。

演習参加者は自分の関心に応じてテーマを自由に設定し（必要に応じて担当教員がアドバイスします）、授業を通じた学び、ゼミ生相互の批評やアドバイスを生かしながら、自らの研究として集約します。

発表者はグループの場合も、個人の場合も、レジュメを作成し、パワーポイントなどを用いて発表をおこないます（事前に資料を配布してもらいます）。発表に対しては全員が参加してのディスカッションをおこないますので、担当者以外の人も十分な予習と積極的な発言が求められます。また毎回各自のコメントを提出してもらいます。

なお授業での講読文献・グループワークのテーマについては、ゼミメンバーの関心や研究テーマを考慮して決定します。

また夏休み中に実施予定の合宿では、テーマを決めた学習会と、研究の中間報告を予定しています。加えて学期中にフィールドワークを実施する予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスの確認、各自が関心をもつトピックの紹介、授業の進め方の確認

2	イントロダクション	文献や資料探索の方法の紹介・確認
3	個人研究紹介	4年生による個人研究の紹介
4	文献講読の導入	とりあげる文献についての紹介・解説
5	グループワーク (1)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(1)
6	グループワーク (2)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(2)
7	グループワーク (3)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(3)
8	グループワーク (4)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(4)
9	フィールドワーク	東京の街を歩くなかでの問題発見とレポートの作成
10	グループワーク (5)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
11	グループワーク (6)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
12	グループワーク (7)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
13	グループワーク (8)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (4)
14	グループワーク (9)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (5)
15	総括と反省	春学期の議論のまとめ、夏合宿の準備

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期のスケジュールの確認
2	個人研究発表 (1)	3年生による個人研究構想の紹介 (1)
3	個人研究発表 (2)	3年生による個人研究構想の紹介 (2)
4	学会準備 (1)	国際文化情報学会でのゼミ発表の準備 (1)
5	学会準備 (2)	国際文化情報学会でのゼミ発表の準備 (2)
6	学会準備 (3)	国際文化情報学会でのゼミ発表の準備 (3)
7	学会準備 (4)	国際文化情報学会でのゼミ発表の準備 (4)
8	グループワーク (1)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
9	個人研究発表 (3)	3年生による個人研究の中間発表 (1)
10	個人研究発表 (4)	3年生による個人研究の中間発表 (2)
11	グループワーク (2)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
12	グループワーク (3)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
13	個人研究発表 (5)	4年生による個人研究の発表 (1)
14	個人研究発表 (6)	4年生による個人研究の発表 (2)
15	総括と反省	秋学期の議論のまとめ、来年度に向けての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定ないし配布された文献・資料を十分に読み込んでおくこと。関連する資料・情報について事前の指示にしたがって（または自主的に）収集・入手し、理解につとめること。

・発表を担当する場合（グループ、個人とも）は、レジュメ等の資料作成を含め、プレゼンテーションの準備をおこなうこと。担当しない場合も事前の指示にしたがって予習をおこない、質問・議論すべき点をあらかじめ考えておくこと（内容の要約をミニレポートとして提出してもらう場合があります）。

・フィールドワークなどの際、指示にしたがってレポートを作成し、提出すること。

【テキスト（教科書）】

・遠藤英樹『現代文化論——社会理論で読み解くポップカルチャー』（ミネルヴァ書房、2011年）

※その他文献や資料のプリント類を随時使用します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。ブックガイドとして下記のを挙げておきます。

・井上俊・長谷正人（編著）『文化社会学入門——テーマとツール』（ミネルヴァ書房、2010年）

・井上俊・伊藤公雄（編）『日本の社会と文化』（世界思想社、2010年）

・井上俊・伊藤公雄（編）『文化の社会学』（世界思想社、2009年）

・佐藤健二・吉見俊哉（編）『文化の社会学』（有斐閣、2007年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業準備、発表、議論への参加など。50%）、提出物（リアクションペーパー、課題、レポートなど。50%）をあわせて評価します。

なお評価にあたっては、以下の5点に着目します。

(1) 文化を研究・分析するための基本概念と方法論を理解・習得できているか。

(2) 対象とする事例について、十分な情報にもとづいて、社会的・歴史的な文脈のなかで正確に理解できているか。

(3) 文献読解や調査のスキルを習得できているか。

(4) 報告や議論を通じてコミュニケーション能力を向上させ、共同の学びに積極的に参加・貢献できているか。

(5) 授業での学習成果を主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見等からの気づき】

・春学期において、理論的学びにより重点を置けるように配慮したい。また秋学期においては、学会準備と並行しながら、各自の論文執筆のサポートのための個別指導を一層充実させたい。

【その他の重要事項】

自分の研究テーマに閉じこもるのではなく、幅広い知的関心をもってグループワークに参加するとともに、他のメンバーのテーマにたいして積極的にコメントし、アドバイスできる皆さんの参加を期待しています。